

宮本が歩いた

50年前の川間(三)

宮本常一は、日記によれば、昭和31(1956)年5月19日、川間村を初めて訪れました。

その日は下見でしたが、2日後には、他の調査員たちと再び川間駅に降り立ちます。

21日の事は「三田。川間↓新宿。晴。午后川間へゆく。春ゼミ

ないている。田植はじまる。古谷さんの家へ行ってはなしを

きき、8・40分のデンシヤでみ

んなで新宿まで来てわかれる。時間をかけてやって見たいものである」と日記にあります。

一見簡単な記述に見えますが、詳しく読み解くと50年以

上前の川間村の様子や宮本の実行が分かる貴重な記録です。日記からどんなことが、分かるのでしょうか。

宮本は、午前中は、東京三田の渋沢敬三郎に居て、午後川間へ行き、新宿経由で夜、三田へ帰っています。

「春ゼミないている」という記載から、当時は川間にはアカマツ、クロマツの松林が多

かったことが分かります。ハルゼミは、4月から6月に発生する翅が透明の蝶で、アカマツとクロマツの林か、その周辺にしか生息しません。

また、田植えが現在よりも

3週間ほど遅かったことも分かります。

さらに「古谷さんの家へ行って」とあるのは、中里で農業を営んでいた古谷誓二(1917~1999)宅です。

宮本らが作成した報告書にはS・Hと書かれています。が、「実際S・Hが云う様に」という記述からも、直接聞き取りしたことが分かります。

誓二の祖父・健次郎は、明治29(1896)年に川間村中里苗木耕作人の8人に名を連ねていた一人で、「健次郎はS・Hの先代」とあることからも、明らかです。

最後に、「8時40分の電車で」とあります。状況から考えて、8時とは20時のことですが、当時の時刻を調べると「川間駅」を出発する20時40分の電車はなく、20時47分「大宮」行きか、同48分「野田市」行きでした。「8時40分台の電車」という意味だったのかも知れません。

※文中敬称略(次号へつづく)
 【参考資料】「大辞林」三省堂
 /「宮本常一写真・日記集成」(毎日新聞社)
 【取材協力】小川浩氏、鎌形寿夫氏、古谷喬次郎氏、東武博物館



昭和31年に宮本常一が写した中里(上)と同じ場所で撮影(下) / 上の写真は周防大島文化交流センター提供

5月の休日当番医

休日当番医での診療時間
 外科・産婦人科 = 9時~22時 (ただし16時~19時は除く)
 内科 = 9時~16時 (19時~22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
3日(土)	しばやま整形外科(☎7120-5355)	豊泉医院(☎7129-3813)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
4日(日)	小張総合病院(☎7124-6666)	石井医院(☎7122-2434)	小張総合病院(☎7124-6666)
5日(月)	野田中央病院(☎7122-6161)	鈴木医院(☎7124-5683)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
6日(火)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	野田病院(☎7127-3200)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
11日(日)	須藤整形外科(☎7122-1221)	花井クリニック(☎7123-3900)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
18日(日)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)	たんぽぽこどもクリニック(☎7126-8118)	小張総合病院(☎7124-6666)
25日(日)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	スズキ皮膚科内科クリニック(☎7126-2285)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。

急病センター ☎7125-1188

▼内科(小児科) = 19時~22時(毎日)
 ▼歯科診療 = 9時~12時(休日)

▼春爛漫の季節となりました。大地は、生命の息吹で一杯です▼清水公園では6日まで「つつじまつり」が開催されています。園内には100品種、2万株のつつじが、色とりどりの花を咲かせ、訪れる多くの人たちの心を癒やしてくれそうです▼一方、6月6日、船形に農産物直売所「ゆめあぐり野田」がオープンします。地元で採れた、新鮮でおいしい農産物を販売します。ぜひご利用ください▼そして市報も、本号は1ページ目から7ページ目まで、大きな文字を使って編集しました (ち)

編集後記



けやき



つつじ



ひばり